



GLOBAL MAPPING NewsLETTER 59

第 17 回地球地図国際運営委員会会合

ISCGM 事務局



第 17 回地球地図国際運営委員会 (ISCGM) の会合は、2010 年 10 月 17 日 (日)、第 16 回アジア太平洋 GIS 基盤常置委員会及び第 12 回全球空間データ基盤国際会議に併せて、シンガポールで開催しました。会合には、9 カ国の国家地図作成機関の代表など 23 名の参加がありました。

会合では、3 年の任期が満了し、委員長の改選が行われ、フレイザー・テイラー教授が再選されました。また、事務局である国土地理院の英語表記が変わったことから、規約改正が行われました。

その他、事務局からは、

- ・地球地図プロジェクト参加・データ整備状況
 - ・データ利用状況
 - ・災害対応
 - ・メタデータエディタ整備
 - ・地球地図仕様の仏語 / スペイン語版作成
 - ・JICA 集団研修
 - ・各種国際会議における地球地図の PR 等について
- 報告されました。

また、ワーキンググループの活動報告として、新仕様に基づく地球地図マニュアル整備、全球土地被覆及

び樹木被覆率データ第 2 版整備計画・準備状況等が報告されました。

これらの報告や討議に基づき、決議がまとめられました。主な決議は以下のとおりです。

【第 17 回 ISCGM 主な決議】

- ・ ISCGM 事務局は、ウェブマッピングサービスについて、テストサイト構築を含む実行可能性調査等を行う。
- ・ ISCGM 事務局は、25 万分 1 等のより大きい縮尺のデータ整備について、ニーズ、実行可能性を調査し、ワーキンググループ 2 と合同で仕様の検討を行う。
- ・ ISCGM は、地理空間情報管理に関する国連の新たな枠組を歓迎するとともに、地球地図が地球規模の課題に利用されるよう、同枠組に積極的に参加する。

次回の会合については、2011 年にケンブリッジ会議に併せて英国ウインチェスターで開催の予定です。

第 8 回アジアにおける温室効果ガスインベントリ整備に関する ワークショップ (WGIA)

岸本 紀子
国土地理院地理調査部



WGIA 第 8 回会合の参加者

WGIA 第 8 回会合が日本国環境省、ラオス水資源環境庁および国立環境研究所の主催で 2010 年 7 月 13～16 日の期間、ラオス人民共和国ビエンチャンで開催されました。

ワークショップには 13 カ国（カンボジア、中国、インド、インドネシア、日本、ラオス、マレーシア、モンゴル、ミャンマー、フィリピン、韓国、タイおよびベトナム）の政府機関および研究機関や UNFCCC、IPCC などの 5 つの国際機関から計 95 名が参加しました。



WGIA 第 8 回会合の会場

国土地理院からは 2009 年韓国で開催された第 7 回会合に続き、2 度目の参加となりました。GSI からの参加者は「土地利用、土地利用変化及び林業 (LULUCF)」分科会において「地球地図プロジェクト」に関する発表を行いました。発表では、地球地図の土地被覆および樹木被覆率データを温室効果ガス (GHG) 排出量および除去量の算定に利活用する方法を紹介しました。



リモートセンシングにより作成した土地被覆データを利用して、GHG インベントリを試験的に開発する方法について発表した参加者もありました。今後、この領域で地球地図も含めた GIS およびリモートセンシングデータの利活用が促進され、NMO（国家地図作成機関）を含む GIS やリモートセンシングの専門家と気候変動、特に GHG インベントリ分野間で人的交流が活発になるものと期待されます。

2010 年度環境地図（地球地図）作成コース

国土地理院 2010 年度環境地図（地球地図）作成コース
メアリー・ジェーン・R・モンテモア（Mary Jane R. Montemor）
フィリピン共和国国家地図資源情報局
地図測地部技官 II

有意義な学習体験は、教室の空間内に限定されるものではありません。自己の限界を超えて広く外部世界の情報を取り込み、新たな経験を積み重ねることにより、学習体験はさらに強化されます。

今回、地球地図作成コースに参加したブータン、バングラディシュ、ケニア、マレーシア、ミャンマー、フィリピン、東ティモール、ウズベキスタンの計 8 カ国の研修員は、自己の限界を超えることができました。どの研修員も自らの能力向上を目指して果敢に挑戦する体勢を十分に整えたうえで、2010 年 6 月 22 日から 9 月 3 日までの期間にわたり、本研修コースに臨みました。

研修コースは、地球地図データセットの作成と利用の理解に必要な講義と実習がバランスよく組み合わせられた構成でした。研修期間中に習得した知識と技能は、研修の成果物である個別課題に十分活用しました。個別課題の概念化にあたっては尊敬する専門家と講師の多大な支援をいただき、心より感謝しております。私たち研修員が前向きかつ意欲的に研修に取り組むことができましたのは、専門家および講師の方々の入念な資料準備とたゆまぬ支援のおかげです。

本研修コースは知識を習得するこのうえない機会であるとともに、国際社会に脅威をもたらす環境問題に対して研修員の出身国が積極的に関与を深める機会でもあります。研修を通じて、環境の現状を理解し、地球地図作成プロジェクトの契機となった国際的な取組に個人個人がどのような貢献をできるかを知るまたとない経験をすることができました。

見知らぬ人々と出会い、文化がまったく異なる国で生活をするという環境は、刺激的な反面、当初は不安もありました。しかし、研修の進行とともに多くのことを学び、新たに友人もできて、共有の話題や楽しみ



講義の様子

も増えていきました。私たちはもう他人ではありません。私たち研修員はこの研修コースに参加する機会を得て本当に幸運でした。プロジェクト成果の達成に向けて、私たちが果たすべき責務も十分に理解しています。研修で習得した事項は机上のものではなく、実践に繋がっていきます。

本コースの研修員に代わりまして、研修コースの完了まで一貫して支援を提供していただいた日本政府、国際協力機構 (JICA) に感謝申し上げます。また、講義、実習、研修旅行などの準備・実施に惜しみない尽力をいただいた国土地理院、(社) 国際建設技術協会 (IDI) および (財) 日本国際協力センター (JICE) にも感謝いたします。さらに、研修中、私たちの宿舎であるとともに、個々人の問題に親切に対応いただいた JICA 筑波国際センター (TBIC) にも御礼申し上げます。

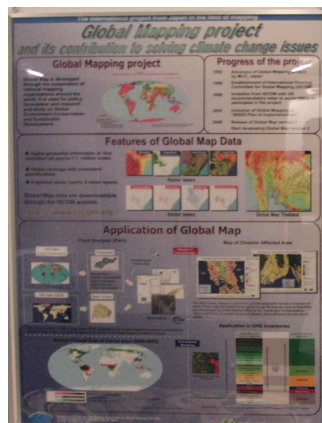
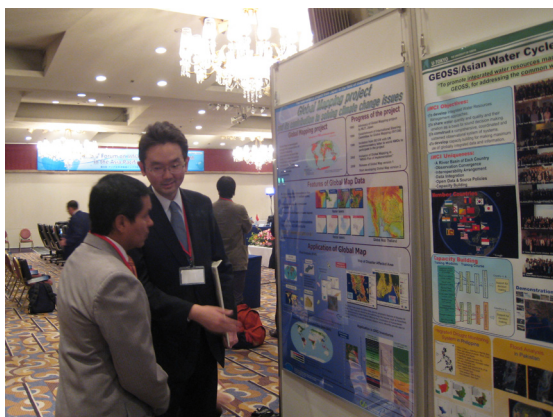
JICE 研修監理員の柴田さん、IDI コーディネータの坂部さん、JICA 担当職員の田中さんは、私たち研修員に辛抱強く対処され、いつも変わらぬ支援をいただきました。ありがとうございました。

皆様に心からの感謝を込めて。

事務局から

アジア太平洋地域インフラ担当大臣会合

第 8 回アジア太平洋地域インフラ担当大臣会合は、2010 年 10 月 9 日に日本において開催され、ブルネイ、チリなど 15 の国と地域の代表団が参加しました。今回の会合のテーマは、「気候変動と水関連リスクへの対応」であり、参加国・地域の知見や経験を共有するため、各国の課題や取り組みについて発表がありました。国土地理院では、その会合においてポスターを展示し、地球地図プロジェクトの概要やデータ利用についての説明を行いました。

地球地図公開と地球地図プロジェクトへの参加

2010 年 10 月 25 日現在、164 カ国 /16 地域が地球地図プロジェクトに参加しています。

そのうち 71 カ国 /4 地域の地球地図が公開されています。

地球地図及び関連の会議

以下は地球地図及び関連の会合の予定です。関連の会合についての情報を歓迎します。

2010 年

- ・ 11 月 3 日～ 5 日、 中国
第 7 回地球観測グループ総会及び第 5 回地球観測サミット
- ・ 11 月 29 日～ 12 月 3 日、 チュニジア
GEO-Tunis
- ・ 11 月 29 日～ 12 月 10 日、 メキシコ
気候変動枠組条約第 16 回締結国会議 (COP16)

- ・ 12 月 9 日～ 10 日、 オーストラリア、キャンベラ
第 31 回 ISO/TC 211 本会議

2011 年

- ・ 5 月 2 日～ 13 日、 ニューヨーク
第 19 回国連持続可能な開発委員会
- ・ 7 月 3 日～ 8 日、 フランス、パリ
第 25 回国際地図学会議 (ICC2011)



NEWSLETTER は地球地図情報紙として、世界中の国家地図作成機関や地球地図データ利用者など 1,200 名以上もの多数の方々に配布されています。記事の投稿、配布の希望、関連する情報などお待ちしております。

編集・発行： 地球地図国際運営委員会事務局

連絡先： 〒305 - 0811 茨城県つくば市北郷1番 国土地理院内

Tel: 029 - 864 - 6910 Fax: 029 - 864 - 6923

ホームページ: <http://www.iscgm.org/>

E-mail: sec@iscgm.org